

# ガラスのショールーム・AGCstudioの開設と運営

旭硝子(株)

木原 幹夫

## Establishment and operation of Glass showroom “AGC studio”

Mikio Kihara

Asahi Glass Co, ltd. Glass Company

### 1. AGCstudioの開設

平成22年10月16日、関係各位のご臨席を賜り、AGCstudioが東京・京橋にオープンして、2年余になる。建築用ガラスを取り扱う開かれた場所として、旭硝子が開設したショールームである。コンセプトは、ガラスの新しい使用方法の追求、新たなガラス文化の創出である。

この、“studio”の名称は、建築家、デザイナー、アーティストとのコミュニケーションやコラボレーションを通じて、ガラスの使い方を一緒に考え、新たなガラス文化を作りだしていく場にしたいとの意味が込められている。

所在地：東京都中央区京橋2-5-8 京橋創生館1・2階（東京メトロ銀座線「京橋」駅4番出口すぐ前、JR東京駅徒歩10分）

面積：626㎡（190坪）

開館時間：10：00～18：00（金曜日は19：00）

休館日：日・月曜日、祝日、年末年始・夏期休暇

### 2. ガラスを知るさまざまな展示

今回、ショールームを開設するにあたり、施設設計を建築家である東京大学・生産技術研究所 太田浩史講師に依頼し、下記の展示空間の

構成になっている。

【1階】ガラスの基本的な性能（遮熱性能、結露防止性能、防音性能）を体験したいだけの体感コーナーと建築家やアーティストによるガラスの新しい使い方の提案等をするエントランス・ギャラリー

【2階】ガラススタジオでは、AGC全てのガラスを手にとることができ、ガラスに関する技術をテーマ毎に閲覧することができる。その他国内外のガラス関連の書籍・雑誌を自由に閲覧できるガラス・ライブラリー。さらにカラー中間膜合わせガラスの間仕切りによる会議室・打合せスペース（定員40～90名）は、建築家であり東京藝術大学・乾久美子准教授に設計を依頼し、AGC studioの華ともいえる施設となっている。

### 3. 企画展とデザイン・フォーラム

施設としてのハード部分は、前述の通りであるが、この場所を知って、利用していただく方々に足を運んでいただくには、ソフトとしての運営内容が重要である。

1階の展示スペースを利用した企画展示は3ヵ月毎にテーマを変えて開催をしている。最近の展示は以下の通りである。

◇No.03 SPACE DESIGN & GLASS

～世界の最新商業空間デザインを見る～

2011.11.22～3.3

◇No.04 U 30 Young Architect Japan.

(30歳以下の建築家による設計コンペ作品展)

「多様な光のあるガラス建築」展

2012. 3. 10～5. 31.

◇No. 05 12組の若手建築家による未来の建築を感じる模型展「新しい建築の楽しさ」展  
2012. 6. 5～8. 11

◇No. 06 「光と熱のデザイン Low-E の科学」展  
2012. 8. 21～11. 22

現在は、「3人のクリエイターが魅せるカラーガラスの可能性」展を3月2日までの予定で開催している。

また、会議室を利用したイベントでの集客とstudioの認知を目的として、“デザイン・フォーラム”の名称で、建築界の著名建築家や最新の話題を提供するイベントをほぼ月一回のペースで、すでに24回開催している。

最近のデザイン・フォーラムのテーマを挙げると、次の通りである。

第17回「エコハウスのウソ ガラスは透明？」

2012. 5. 25 前真之氏：東京大学准教授。

第18回“世界とつながる” 2012. 6. 5

建築家・前田茂樹氏、竹口健太郎氏、平田晃久氏

第19回“場所性を考える” 2012. 6. 21

建築家・安宅研太郎氏、白井宏昌氏、小堀哲夫氏

第20回“関係性をつくる” 2012. 7. 12

建築家・末光弘和氏、武井誠氏、渡邊健介氏

第21回“風景をつくる” 2012. 8. 02

建築家・安原幹氏、古澤大輔氏、

(第18～21回はNo. 05企画と連動)

第22回「震災における非構造部材の被害について」2012. 9. 20 熊谷亮平氏(東京理科大学工学部講師)、江口亨氏(横浜国立大学大学院助教)

第23回 U-30 設計競技「多様な光のあるガラス建築」公開審査 2012. 10. 12 審査委員長：建築構造家・佐藤淳氏、委員：建築家・太田浩史氏、平沼孝啓氏、AGC市場開発室長・

花澤晴由

第24回「省エネ基準改定でこう変わる、ビルの設計作法」林立也氏・(株)日建設計総合研究所 2012. 11. 20

この様に、注目の若手建築家から環境工学や耐震設計の大学の専門家までご登場願ひ、建築に携わる顧客対象に各分野の最新の話題を提供している。

#### 4. ガラス建築ツアーの開催

建築に携わる専門家をメインターゲットにしたコンセプトであるが、AGCstudioのホームページでは、もう一つ募集をしているイベントがある。スタジオを拠点として、銀座、丸の内のガラス建築を見て回る見学会「ガラス建築ツアー」だ。

ご存じのように銀座は日本を代表するショッピング街だ。特に最近の海外ブランド店の進出は目覚ましいものがあり、内外の有名建築家が手がけた最新のショッピングデザインを見ることが出来る。その素材としてほとんどの場合、さまざまな表現のガラスが使用されている。

一方、東京駅をはさんで丸の内地区に展開する日本有数のビジネス街も、再開発が進行しており、最新のオフィスビルが林立している。また、休日には別の賑わいを見せるショッピング街の「丸の内仲通り」や創建時の姿に復元され話題の「東京駅」を眺めながら解説を加える1時間半ほどのツアーを組んでいる。

また、土曜日に実施されるため、実際にこれから住宅やビルを建てようと計画している一般ユーザーも多数参加している。

#### 5. 最近の建材のショールーム

1980年代から、「ガラスを知っていただく」というショールームの基本姿勢は変わってないが、それを伝える環境は大きく変わっている。

カタログ等の「印刷物」と「営業マン」の2本柱で情報発信していた時代は変わり、「インターネット」、「カスタマーセンター」に主役が

代わってから久しい。その時代にあるべき「ショールーム」とは何かを模索したのが、AGCstudio であるとも言える。

インターネットの普及で、ほとんどの知識を得ることは容易にできる時代になったが、そこから深く掘り下げたり、湧き上がった疑問についてはカスタマーセンターへ電話で問い合わせしたり、ショールームに行って実際に目で確かめて、自分が納得するまで行動するという消費者パターンが多くなっている。それらを受け止めていくのが studio の役割である。

## 6. ガラスを巡る環境

ガラスは成熟商品であると言われて久しい。確かに数千年の歴史がある素材でもある。しかし、用途はいまだに無限に広がっている。最近の液晶TVやプラズマTVの普及、タブレットPC・スマートフォン等タッチパネルへの応用や、自動車の進化とともに広がるガラスへの要求を見ても、衰えることを知らない。人間の新しい情報取得への欲求やコミュニケーション伝達手段のアイテムが急速に変化していく現代では、既存の概念すら、すぐ陳腐になる時代である。このような時代に、Studio の役割は、新しい素材の可能性を示すことや分野を限らず新しい性能を探索している専門家や設計者のニーズと出会う機会を作ることであると自覚している。

## 7. 今後の運営計画

3年目にあたっては、施設として国内外の施工例検索やガラス耐風圧計算等ができるタッチパネルを設置した。また、設計者が注目してい



AGC 全てのガラスを手にとることができるサンプル・コーナー



カラー中間膜合わせガラスの間仕切りを使用した会議室

るガラス以外の建築材料である“ETFE（空気膜構造の素材）”サンプルやポリカーボネート樹脂建材等の展示も充実していきたい。

また、3.11以降、ますます重要な課題となってきている「安全・安心（＝合わせガラス）」や「省エネ（＝Low-Eペアガラス）」の性能を理解していただくため、さらなる商品ラインナップの展示充実と営業キャンペーン等の活動の場を提供していきたい。